

【第2回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング開催報告】

◇日 時：平成29年7月28日（金） 19：00～21：00

◇場 所：中標津町役場3階 301会議室

◇出席者：14名

【意見交換】

テーマ：中標津型景観整備機構（仮）の設立に向けた事業メニューと組織体制を検討

○事業メニューと組織体制の検討

事例① 景観学習

- ・普段子どもと関わる機会が少ないので、景観に限らず子どもと関わることのできる活動を増やせたらいいと思う。
- ・他の町では、景観学習として学校や教育委員会から依頼されて、街歩きなどを実施しているところもある。

事例② 景観調査

- ・景観整備機構は景観重要建造物や景観重要樹木の指定できるので、指定するための景観調査を検討。
- ・これから空き家が多くなっていくので、函館でもやっているような空き家対策の事業も考えられる。空き家を売る、買う、解体など。
- ・寿都町の事例としては、歴史的建造物に対して、空き家対策として1億円以上の事業費をつけて改修工事をした。
- ・うまくやればアパートや店舗以外も空き家対策事業として出来るため、やり方によってはお金も入る。
- ・景観調査は幅があり、調査そのものの事業化や、調査した後もなんらかの形で事業化するなどが考えられる

事例③ 花植え活動

- ・花植えをする際に、指導する人によって植え方が変わってしまっていることがあって気になった。もったいない植え方をしていることがある。
- ・いろいろなところで花植え活動や桜の植樹に取り組んでいるが、なかなかこれがいいという花や植え方がない。手間の割には……ということが多い。
- ・釧路では釧路市の花としてキンレンカを植えている。すぐ増えて育ちやすく咲きやすい。市で話し合って決めたい。
- ・野の花の会で活動しているが、始まったばかりで範囲も広いので、ゆっくりと町のためになるように進めていければいいと思っている。
- ・花だけでなく、木も植樹しっぱなしではすぐ枯れてしまう。花も木も植えっぱなしではいけない。雑草なども生えて逆効果にもなり得る。植物と景観はとても難しいので、長い目でやってもらいたい。

- ・今の子どもは、あまり土いじりをしていないので、花壇に花を植えて、雑草を処理して、キレイに保つということを知らない。最初から植えなければいいと考えてしまう。意識を変えられたらいいと思う。

事例④ 景観フォトコンテスト

- ・景観フォトコンテストとあるが、観光協会で現在やっているのは観光目的のフォトコンテスト。景観のフォトコンテストもいいと思うが、目的をはっきりとしないと少し違うものになってしまうと思う。
- ・実際にフォトコンテストの事務局をやっているがとても大変で、多くの人数とお金が必要になる。
- ・去年フォトツアーを開催したが、それをうまく景観に結び付けることができればいいと思う。
- ・北大では、SNS に投稿された写真を地図に落として景観を評価する研究をした。中標津でもグーグルマップを利用してそういったことができればいい。

○景観学習・沿道景観調査について情報提供

東小学校で景観学習

中標津町では既に景観学習を実施しているが、最初から学校事業としてやるのは難しかったので、まずは西町・川西町内会に協力してもらい、町内会単位で景観学習を実施し、メニューが楽しいかどうか意見をもらいながら内容を検討した。

一昨年には西竹小学校、昨年は計根別学園で実施することができ、今年は東小学校での実施を予定している。

今までは景観ネットワーク2名と学芸員1名が主立ってやっていたが、東小学校では参加人数が今までよりもかなり多くなるため、指導側の人数もその分多く必要になるので、N-CANに協力してもらおう。実施予定日は10月31日。

来年か再来年か、いずれは景観ネットワークなしで、景観整備機構のお仕事として開催できるようになればいいと考えている。

沿道の景観調査

10月くらいに実施予定。町内の道路6本を景観ネットワークと役場で選定し、その道路から山に向かって、3.2～3.5mの高さからカメラで撮影したとき、なにがどう見えるかを調査する。人数は2人1組を5組作りたいため、10人に頼みたい。農業地帯の沿道調査で、カメラの高さは観光バスの高さを想定、バスからどう見えるかを調査したい。カメラの高さ設定が可能なのかE-photoクラブに相談し、三脚、軽トラ、ドローンなど要調整。500m間隔で、東西南北とその間で8方向を撮影。パノラマではなく、その方向のみの撮影となる。

〇ここまで話しての意見・感想

- ・町全体の街路灯を、白樺をモチーフとしたデザインに統一化するなど面白いと思う。観光客が増えてることで消費者も増えて経済が潤うなど、相乗効果が期待できる。
- ・空港から降りてくる観光客の目に留まるように、丸山公園に花を植えたりなど有効活用できないか。
- ・空き家について事例として、歴史的な建物として古民家があって、それを利用して再生して民宿したりするというのを見たことがあるので、お金を生んで、観光客も増えるし、空き家の対策として利用ができるのかなと思った。
- ・空きマンションの1室を、お金のないデザイナーや、画家志望の学生などに安い賃金で貸して、ギャラリーなどに利用させるということもしていた。
- ・花植えからの維持の話として、水の樽を台車で押して水をかけるという作業を見て、大変そうだった。
- ・中標津の花のりんどうを見たことない子ども達も多いと思うので、町の中のどこかにりんどうを植えるという活動があればいいと思う。そしてそれは、子ども達や観光客が気軽に見にいける場所にあつたらいいと思う。
- ・中標津の畑にあるじゃがいもの花も綺麗なので、咲いてる期間は短いけど町中にあつても面白いと思う。
- ・白樺模様の電柱が1本建っているのでもっと町にそういうのがあつたら楽しいと思う。今年小樽に視察に行ったが、街路灯がランプのような光を放っていて、とても暖かい感じがした。
- ・中標津は歩く人が少ないので、ぱっと目に入る電柱が大事ななのかもしれない。
- ・街路灯は川湯でも茶色にするなどしている。
- ・りんどうは森林公園で見ることができる。
- ・丸山公園は素通りする人が多いが、都会の人から見たらとても魅力的な場所で、住んでいる人は気付かないが、新たな観光施設がなくとも十分いい場所だと思う。
- ・丸山公園は川があって、ベンチがあって、今は見た目が少しすけて薄暗い感じになっているが、桜をたくさん植えて桜並木が出来たらいいのになあと勝手に思っている。
- ・沿道景観調査については、景色がいいところには防雪柵があるので少し残念。
- ・農村風景としてじゃがいも畑や蕎麦畑もあり、美瑛に負けず劣らずの風景があるかも知れないので、そういうのも調査して欲しい
- ・西町川西のような町内会単位のものや、両隣2軒3軒のようなもっと小さな単位の取り組みから少しずつ始めるのもいいのかなと思っている。その取り組みをどうやってみんなに知らせるか、関心の低かった人にアピールするメニュー作りが大事だと思う。

○今まで景観まちづくりへの関心の低かった人達を巻き込む事業メニューを検討

中標津町の色のワークショップ

- ・夏の景観ばかりで、秋の景観や冬の景観についてはあまり話していない。
- ・イルミネーションが1軒でキラキラしているより、多くの家が少しずつキラキラさせていたほうがキレイ。
- ・準備期間も考えて春夏は来年度開催にして、今年度は冬に開催したい。まち歩きして色を見つけるという内容。
- ・将来的に町を担う人ということで、中高生を集めたい。
- ・コミュニティスクールが始まったので、将来的にはそれに組み込むというのも考えられる。
- ・色がどれだけ人に影響を与えるかという基本から学ぶのか、それとも先に色を見つけることをしてから勉強するのか、どっちがいいか、冬にワークショップをするのであればおそらく先に勉強会になる。
- ・絵を子どもたちに描いたもらったり、色や名前を決めたりを授業でやるのは面白いと思う。
- ・色は大人が決めて、名前を子どもが決めるのがいいと思う。
- ・フォーラムは来年の3月

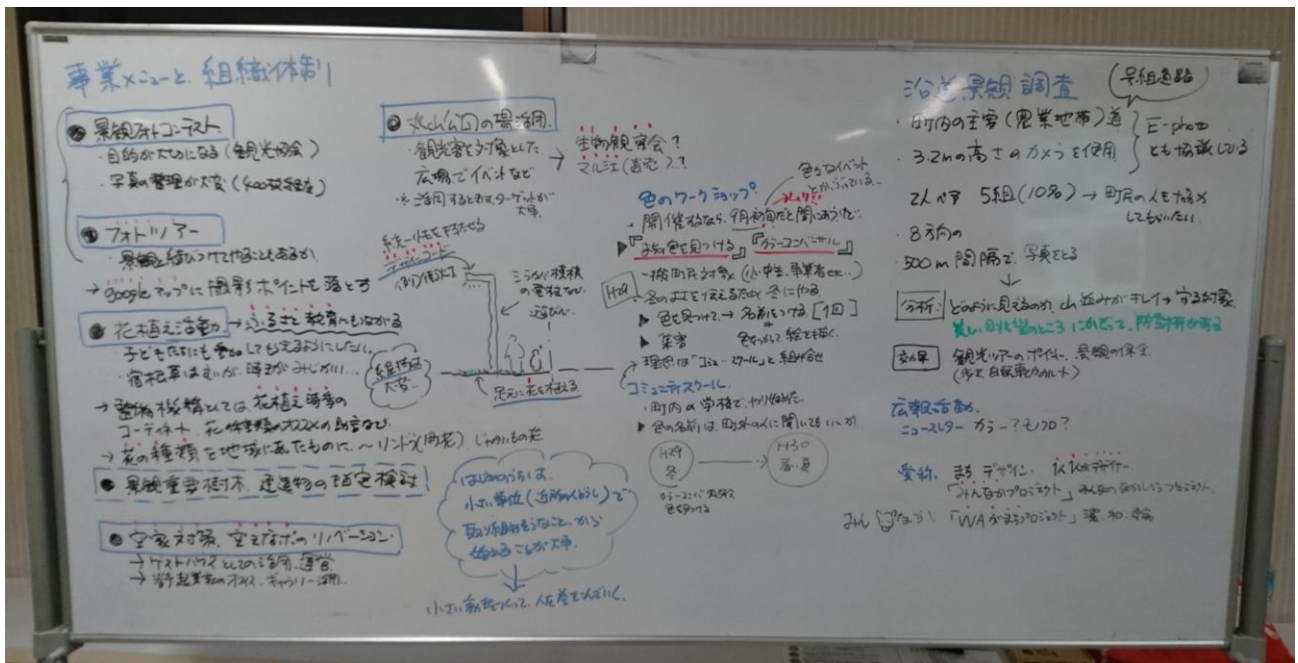
○広報活動と今後の進め方

- ・現在はニューズペーパーを文化会館、ゆめの森公園、計根別支所に10部ずつ置いている。
- ・カラーで出す場合、役場での印刷枚数が限られる。
- ・町内会の回覧に必要なのは500部。
- ・白黒印刷で出す場合、デザインを白黒用にするか、色つきの紙を使うか。
- ・景観の話なので、出来ればカラーのほうがいい
- ・今のデザインならとても目を惹かれるが、白黒で回覧板が回ってきたらスルーしてしまうと思う。
- ・回覧とその他商業施設におくとしたら1000部は必要になる。
- ・持って帰って読んでもらうことが大事
- ・ビギナーは中標津だけでなく、弟子屈厚岸までいく。具体的に活動が動き始めたときにビギナーに入れるのがいいと思う。
- ・広報に入れる場合は1万部必要となる。
- ・今の若い人は、広報よりビギナー。全然広報を見ない。それとSNS。
- ・インターネットでの広報について、既にインスタグラムも開設して、フェイスブックの内容をそのまま投稿している
- ・関心の低い人に向けて広報をするのであれば、一目で目を惹くようなコピーか、名前

が欲しい。TPC よりもう少しわかりやすいのが欲しい。

○名前について

- ・協働の景観まちづくりというよりも、それをデザインと言い換えたらピンとくる。まちをデザインする、というように。
- ・景観 TPC ならわかるが、いきなり TPC とくると一目で内容がわからない。
- ・自分達のまちを作っていこうということで、「みんなの町なかしべつプロジェクト」略して「みんなかプロジェクト」。
- ・「WA がまちプロジェクト」WA はみんなの輪という意味と、和むの和という意味で、観光客に和みを与えて、みんなで手をつないでいい町にしていきたいと思いますという意味がある。
- ・みんなかプロジェクトも、「はこ×まち」のような形にしたらもっと馴染みやすいかもしれない。
- ・みんなかプロジェクトがいいと思うが、とりあえずまた次回に保留。



(おわり)